

気持ちを伝え合うケア・暮らしの中で学んだこと ～認知症専門医の父 長谷川和夫との対話より～

認知症の診断に欠かせない 長谷川式認知症スケールの生みの親



限られた時間と限られたスペースで、効率的かつ公平に、認知機能の低下を診断できるよう、1974年に開発されたスケールです。
現在でも、医療機関において、認知症の診断に広く用いられています。

認知症になった父との関わりを通じて、気づかされた大切な教え。
それは『人の本質は変わらない』ということー。



令和8年5月16日(土)

参加無料

開場 13:00 開演 13:30～16:00 (予定)

申込不要

会場

田沼中央公民館 大ホール(佐野市戸奈良町 1-1)

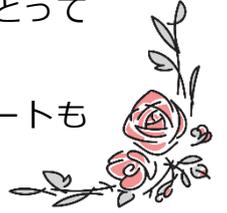
対象

佐野市民の方、内容に興味・関心のある方 (定員300人)

13:30	開会
13:35	第1部 講演「父(認知症専門医 長谷川和夫)との対話 ～気持ちを伝え合うケア・暮らしの中で学んだこと～」 【講師】 南高 まり 氏
14:35	休憩
14:45	第2部 対談「寄り添いから気付かされた大切なこと」 【登壇者】 南高 まり 氏 永島 徹 氏 (ソーシャルワーカー・ナビゲーター)
15:15	第3部 スペシャルミニコンサート～日常を忘れるひとときを～ 【演奏者】 ピアノ: 南高 まり 氏 チェロ: 宇野 哲之 氏
15:45	閉会



今や、認知症の診断においては欠かせない「長谷川式認知症スケール」。
そのスケールを開発した、認知症医療の第一人者 故・長谷川和夫 医師は
ご自身が認知症になった後も、当事者としてその経験を発信し続けました。
今回は、娘の南高まりさんをお迎えし、ご自身の介護経験に基づくお話や
認知症とともに生きる社会に向けたお話から、認知症の方やその家族にとって
より良く生きていくヒントをお届けします。
講演会の最後には、音楽に精通するお二人から心安らく素敵なコンサートも
あります。



— 登壇者紹介 —

国立音楽大学卒業後、音楽を通じての地域活動を推進するとともに、現在は精神保健福祉士として立川市役所の精神障害者デイサービスに勤務。三人きょうだいの長女として、父（長谷川和夫先生）が80歳を過ぎた頃から主な活動に付き添い、著書「父と娘の認知症日記」（中央法規出版）などを通じて介護の体験を発信している。



南高 まり 氏



宇野 哲之 氏

東京藝術大学 音楽学部器楽科 チェロ専攻卒業。同大学大学院修士課程修了。イタリアに留学、ローマ・サンタ・チェチーリア・アカデミア室内楽科に学ぶ。第58回日本音楽コンクール・チェロ部門入選。オーケストラ・アンサンブル金沢チェロ団員、上越教育大学教官を経て、新潟大学教育学部音楽科教授を2025年3月に定年退職。

2003年にNPO法人 風の詩を設立。同法人の理事長、認定社会福祉士、主任介護支援専門員、認知症ケア専門士などの資格を持つ。認知症ケアから、児童発達支援における地域実践を取り組む傍ら、日本社会事業大学大学院 特任教授にて人材育成にも従事している。



永島 徹 氏



※駐車場は台数に限りがありますので、徒歩や自転車、公共交通機関の利用にご協力をお願いいたします。また、お車でお越しの際はできるだけ乗り合わせてお越しくください。駐車場は田沼中央公民館のほか、佐野市北部学校給食センターにも停めることが可能です。

主催：佐野市/佐野市社会福祉協議会

協力：NPO 法人風の詩/チームオレンジさの/地域包括支援センター/認知症地域支援推進員